



世界におけるフロリデーションの現状

現在、世界中で4億5000万人がフロリデーシンの恩恵を受けています。そのうち少なくとも3億5000万人が浄水場でフッ化物濃度を調整した水道水を利用し、5000万人以上が天然の適正濃度の水道水を利用しています。

フロリデーションを実施している国は、オーストラリア、ニュージーランド、米国、カナダ、イギリス、アイルランド、スペイン、イスラエル、ブラジル、チリ、アルゼンチン、コロンビア、中国香港行政区、韓国、シンガポール、マレーシアなど約60か国です。



米国ではフロリデーシンの普及拡大が今も継続

米国は1945年に世界で初めてフロリデーションを実施した国です。フッ化物濃度が適正に調整されている地域の人口は、1992年の62.1%から2000年には65.0%と増加し、2008年には72.4%、1億9500万人となっています。

そのうち約800万人は天然の適正濃度の水道水を利用しています。現在、フロリデーションは、米国の50大都市のうち47都市で実施されています。また、人口100万人以上の都市は、すべてフロリデーションが実施されています。



水道水以外でフロリデーションを実施する方法

スイス、フランス、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、スロバキア、ペラルーシなど、多くのヨーロッパ諸国でフッ化物添加食塩が広く利用されています。

中央アメリカ諸国および南アメリカ諸国でも、フッ化物添加食塩は広く使用されています。

口腔保健とフッ化物利用についての情報を詳しく知りたい方は下記のホームページをご覧ください。

水道水フロリデーション、フッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤、フッ化物歯面塗布など、フッ化物利用全般について詳しく解説されています。また、国内外の専門機関や学会などの見解もまとめてありますので、フッ化物利用について知りたい方はぜひご覧ください。

厚生労働省ホームページ「e-ヘルスネット」歯の健康

<http://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/teeth/h-01-005.html>

(e-ヘルスネットは、厚生労働省が一般の方を対象に正しい健康情報をわかりやすく提供するために開設したサイトです。)

日本歯科医師会ホームページ テーマパーク 8020「口腔保健とフッ化物の応用」

<http://www.jda.or.jp/park/prevent/index05.html>

富岡甘楽歯科医師会のホームページ

<http://www.tkda.jp/>

公益社団法人 富岡甘楽歯科医師会

群馬県富岡市七日市 640-1 TEL: 0274-62-1706 E-mail: tkda@tkda.jp

富岡甘楽歯科医師会の「フロリデーションについての啓発活動」は、平成19年度から23年度まで5年連続で、公益財団法人8020推進財団の歯科保健活動事業助成を受けています。

この度、平成22年度の事業が「他者の模範となる事業報告」に選定されました。

発行日：平成24年4月1日

一生自分の歯で 食べるために

監修 厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」
発行 公益社団法人 富岡甘楽歯科医師会



歯を失う原因の約9割は、むし歯と歯周病です。

一生自分の歯でおいしく食べるためには、むし歯と歯周病の予防が重要で、予防対策の実施により、比較的簡単に予防することができます。

むし歯予防のためには、フッ化物利用、特に公衆衛生的な対策の実施また、歯周病予防のためには、適切な歯みがきの励行と、かかりつけさらに、口腔の健康増進が医療費の大幅な節約につながるということつまり、口腔の健康状況が全身の健康状態に明らかに影響を与えていることなのです。歯科口腔保健法の公布・施行（平成23年8月）を機に、長中期的視

フッ化物利用で幼児のむし歯が大幅に減少

富岡甘菜地区は、約20年前まで乳歯のむし歯が県内で最も多い地域でした。そこで、富岡甘菜歯科医師会は、市町村と協力して健診と歯科保健指導の回数を増やし、定期的なフッ素塗布（フッ化物歯面塗布）を導入するという対策を行いました。平成5年度までには、管内全市町村の歯科保健事業でフッ素塗布が実施されるようになり、それとともなって家庭でのフッ化物利用も普及しました。また、富岡甘菜地区の幼稚園・保育園では、フッ化物洗口が実施されるようになりました。

その結果、3歳児の1人平均のむし歯が約5本（平成3年度以前）から0.64本（平成22年度）に、むし歯のある児が約80%（平成3年度以前）から19.2%（平成22年度）と大幅に減少しました。平成9年度以降は、県内で最も幼児のむし歯が少ない地域になっています。

富岡保健福祉事務所管内 3歳児健診の結果
一人平均むし歯数（本）



厚生労働大臣表彰を受賞

第32回全国歯科保健大会（平成23年11月19日岐阜県開催）において、富岡甘菜歯科医師会が歯科保健事業功労者表彰（厚生労働大臣表彰）を受賞しました。群馬県内の団体としては22年ぶりの受賞です。受賞理由は、「多年にわたり富岡甘菜地区の市町村と協力し、フッ化物応用等歯科保健事業に取り組み、乳幼児のむし歯減少に貢献した功績と、高齢者や障害者の歯科保健医療の充実に尽力している」です。

また、富岡甘菜歯科医師会の入山主任歯科衛生士が、第33回母子保健奨励賞・毎日新聞社賞を受賞し、東宮御所において皇太子殿下からお祝いのお言葉を賜りました。受賞理由は、「歯科保健指導の充実、健診でのフッ化物歯面塗布と家庭でのフッ化物利用を組み合わせた乳歯のむし歯予防対策の推進など、乳幼児のむし歯罹患率減少に貢献した」です。歯科衛生士が毎日新聞社賞（母子保健奨励賞受賞者15人から3人を選抜）を受賞するのは今回が初めてのことで、



要になりますが、そのどちらも科学的根拠に基づいた

が重要です。歯科医を持ち定期的に予防管理をしていくことが大切になります。が各種の調査で認められています。点で、歯科疾患の予防と健康格差の解消について考えてみましょう。

これからのむし歯予防

日本では、フッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤、フッ化物歯面塗布などが利用されています。しかし、先進国と比較するとフッ化物の利用が遅れているため、砂糖の消費量が少ないにもかかわらず、むし歯が多い状況が続いています。



一生を通してむし歯予防対策の確立のために

富岡甘菜歯科医師会は、WHO（世界保健機関）が推奨する最も優れた公衆衛生的なむし歯予防対策であるフロリデーション（水道水フッ化物濃度調整）を普及させたいと考えています。フロリデーションが実施されれば、子供から高齢者まで、給水地域で生活する住民すべてが、生涯を通じてむし歯予防の恩恵を受けることが可能にな

り、健康格差の解消にもつながります。フロリデーションの実施により、むし歯が大幅に減少すれば、国が提唱する8020運動の実現に大きく貢献することになります。さらに、歯が残り咀嚼力が保持されることは、全身的な病気の予防や健康増進にもつながり、将来は医療費の抑制に結びつくことが確かめられています。



フッ素がむし歯予防に使われるようになった理由

20世紀の前半に、適量のフッ素（フッ化物）が含まれる飲み水を使っている住民に、むし歯が少ないことが分かりました。この事実をもとに1945年から水道水にフッ素を追加して、むし歯予防に適したフッ化物濃度に

調整する方法が開始されました。逆に飲み水のフッ化物濃度が高すぎる地域では濃度を下げて調整します。これがフロリデーション（水道水フッ化物濃度調整）です。



フロリデーションがフッ化物利用の原点

むし歯予防のためのフッ化物応用法としては、フロリデーションの歴史が最も古く、米国において1945年から始められ、既に67年になりました。フロリデーションの有効性・安全性が確認される過程で、歯に直接フッ化物を作用させる局所応用（フッ化物歯面塗布、フッ化

物洗口、フッ化物配合歯磨剤）の普及も進みました。半世紀以上にわたるフッ化物応用の有効性、安全性に関する研究結果に基づき、専門機関であるWHO（世界保健機関）やFDI（国際歯科連盟）などが、世界各国に利用を推奨し実施を勧告しています。